

天竜川流砂系総合土砂管理計画検討委員会【第4回上流部会】 議事要旨

■日時：平成31年3月7日（木）15:00～17:00

■場所：AP名古屋、名駅 B+C+Dルーム
（名古屋市中村区名駅4-10-25 名駅IMAIビル8階）

■委員出席者（敬称略、五十音順）

石神 孝之、内田 太郎、沖野 外輝夫、辻本 哲郎（委員長）、戸田 祐嗣、中村 圭吾、平松 晋也、溝口 敦子

■議事次第：

1. 開会挨拶
2. 規約の確認及び委員紹介
3. 議事
 1. 天竜川流砂系総合土砂管理計画の策定に向けた取り組み及び進め方
 2. 総合土砂管理計画策定に向けた検討
 - ①土砂収支の把握
 - ②流砂系として目指す姿・土砂管理目標と土砂管理指標
 - ③土砂管理対策
 - ④モニタリング計画
4. 閉会挨拶

■議事概要

1. 開会挨拶
2. 規約の確認及び委員紹介
3. 議事
 1. 天竜川流砂系総合土砂管理計画の策定に向けた取り組み及び進め方
主な意見等 特になし。
 2. 総合土砂管理計画策定に向けた検討
 - ①土砂収支の把握
主な意見等 ●天竜川自体にはこれまでに生物系データは取れていると思うので、データ整理を始めたほうが良い。どういうものを目標とするか、今あるデータを見ておく必要がある。
●上流域で大事なものは河床に存在する「粒径集団 III,IV」であると考えている。上流の表現としては、粒径集団 III,IV の動態が見えるぐらいの表記にすべき。

- どのような現象を想定して収支を把握しているのか、前提条件を明確にした方が良い。
- 与田切川の観測値と平衡給砂量が同等であることをもって、支川全体の平衡給砂量が一致すると示しているように見える。土砂供給のやり方で幾らでも本川は河床変動するので、あくまでも、土砂生産が活発な与田切でしか調査していないことを明記すべき。
- 河川の流砂量が増加した場合、細かい粒径が河床を構成する粗い材料の間に入り河床低下を促進することはいえるが、モデルとしてその状況が組み込まれているかは確認すべき。
- 河床低下などが起きている箇所は、河床材料が細かい粒径に置き換わり、その後の出水で堆積した土砂が流されていると思われる。流量ハイドログラフも確認し状況を説明すべき。
- 計算の精度検証が必要であり、そのためのデータとしてどのようなものがあり、どう表現するかを明確にすべき。

②流砂系として目指す姿・土砂管理目標と土砂管理指標

③土砂管理対策

- 主な意見等
- 連続性の確保は年単位での視点で捉えているが、このタイムスケールでは細くないか。計画対象期間で示すように5～10年単位が1つの評価スパンだと思う。
 - 代表生物をどうやって決定するのか。流砂系の土砂管理目標の指標として、その代表生物が適当であるかの検討も必要であり、具体的に抽出すべき。
 - 土砂管理目標として“土砂災害防止”そのものではなく、土砂災害を防止するために砂防容量を確保するなどが目標ではないか。
 - どの粒径をどこで止めるのか、河道はどの粒径まで許容できて、どのような土砂が流下したら、どのような環境となるのかという将来的なビジョンを持って計画すべき。

④モニタリング計画

- 主な意見等
- 各領域の課題に対する目標があり、その中の幾らかが総合土砂管理として領域間をつなぐものとして位置付けられるべきである。
 - 礫河床を利用する鳥類が重要となるので、鳥類のモニタリングも追加すること。

4. 閉会挨拶

以 上